

**2021 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書**  
**(協力活動)**

提出日:2022 年 5 月 30 日

氏名:稲垣 葉子

プロジェクト名称:Manasa Mora

実施国:ギニア共和国

実施期間:2021 年 10 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

## 1. 活動実施内容概要

Manasa Mora は、マダガスカルとギニアにおける女性のエンパワーメントと衛生状態改善を目的としたソーシャルビジネスである。本事業は、代表の稲垣が海外協力隊としてマダガスカルで 2 年間生活した実体験からアイデアを得て、任期終了後、2020 年及び 2021 年にマダガスカルのトアマシナ及びギニアの首都コナクリで女性 250 名に対し実態調査を実施した。調査では、女性が週に約 6～8 時間手洗い洗濯に費やしていること、多くの女性が手洗い洗濯での手荒れ、疲労感、腰痛等の健康被害を受けていることが明らかになった。また、手洗い洗濯で出る汚れた水を水はけの悪い地面に捨てるため、水溜まりができ、マラリアやデング熱等の感染症を媒介する蚊が増える原因の 1 つとなっている。2020 年、アフリカでのマラリアの死亡者数は約 384,000 名で、新型コロナウイルスの死亡者(約 112,000 名)よりも多くいた。更に、洗濯物を乾燥する際にも、特に雨季は室内や草むら、地面の上等に干すため、ダニ等の小さな虫が付く、カビが生える等の問題がある。

そこで、日本にあるコインランドリーの仕組みを応用し、途上国に合わせた運営システムや価格設定を考え、その社会インパクト及び財政的持続性を測るために、ギニアの首都コナクリ市で 6 か月間の試運転(内、貴団体支援金を受け実施した期間は、2021 年 12 月—2022 年 2 月)を実施した。

## 2. 活動の結果・成果

2021 年 10 月から 2022 年 3 月までの活動の結果、洗濯サービス及び乾燥サービスをそれぞれ累計 256 名、累計 206 名の利用者(洗濯・乾燥サービスの利用者に重複あり)に提供した。1 回のサービスは 6kg の衣服(T シャツ約 40 枚分)当たり 15,000 ギニア・フラン(約 215 円)とコナクリ市に住む中所得層をターゲットに価格設定をした。マダガスカル及びギニアで実施した市場調査では、多くの女性が週に 6～8 時間を洗濯に費やしていたため、6 kg 当たりの洗濯・乾燥に 2 時間を費やすと考えると、利用者計 400 時間以上の時短を達成した。

また、2021 年 10 月から 2022 年 5 月末現在まで、2 名のオペレーター女性を雇用し、若者女性の雇用を創出した。

## 3. 期待された効果と実際の相違点

### • 女性の家事労働削減とエンパワーメント

女性の家事労働削減とエンパワーメントを主目的とした事業であったが、実際の利用者の内 8 割が男性、2 割が女性であった。理由は、男性の方が交通手段を持っている、仕事をしている、外に出る機会が多くある、家庭の財布のひもを握っている等考えられる。一人暮らしの男性の利用者は約 20%であったため、男性利用者が妻の分を合わせた家族分の衣服を持ち込む姿も見られ、そういったケースは、結果的

に女性の家事労働削減に貢献できたと言える。SNS 等で特に女性をターゲットに広報したが、女性客の増加は見られなかった。

- **感染症対策・衛生環境への効果**

本事業のもう一つの目的がマラリア等の感染症対策・衛生環境の改善であるが、効果を測定するのは困難であった。マラリアは依然としてギニアで最も多い死因の 1 つであり、5 歳以下の子どもの保有率は 30%である(つまり、3 割の子どものマラリア原虫を身体に保有している)とのギニア保健当局からの報告もある。また、コナクリ市内には下水設備を備えた家屋等は少なく、一般家庭で出た汚水は家の脇の側溝に捨てられる。5-9 月の雨季には、大雨が降り、側溝の水は溢れかえる。本事業を実施することで、利用者累計 200 名の手洗い洗濯を減らし、洗濯により発生する汚水処理を適切に行うことで、衛生環境改善に貢献できたのではないかと考えているが、実際にその効果を検証する段階まで至らなかった。

- **その他:利用者によるフィードバック**

2022 年 3 月に実施した利用者に対する調査の結果では、回答した全員がサービスの質に満足し、Manasa Mora の良い点として約 60%が値段であると回答した。手洗いと比べ、良質で安価なサービスに利用者が満足している旨が分かった。

#### 4. 活動成果の持続発展性

活動の持続発展性は、現状では低いと言える。利用者数が安定するにつれ、利用料による収入が月平均約 150 万ギニアフラン(約 21,600 円)程になったものの、家賃月 500 万ギニアフラン及び人件費月 400 万ギニアフランの合計 900 万ギニアフランをまかなうには程遠い。

このような現状において、2022 年 8 月末までは新たに他団体からの資金支援を受け実施予定であり、それ以降の資金工面は現在検討中である。

一方、当初実施を検討していたマダガスカルでの展開に関し、チームメンバーやアドバイザーと検討を重ね、その経験からアドバイザーの 1 人が地元で Manasa Mora という名のランドリー運営準備をしている旨連絡があった。試運転での経験を基に、5 に持続発展性を高めるための教訓を記す。

#### 5. 苦勞した点、反省点、本活動を通じて得られたこと、学んだこと、教訓等

- **為替変動**

2021 年から 2022 年にかけて円安とギニアフラン高が同時に発生し、事業の財政を圧迫した。2021 年初頭に 1 ユーロ=125 円程だったのが 2022 年には 1 ユーロ=139 円まで円の価値が下がり、それに伴い支援金の現地での価値も減少した。また、2021 年初頭に 1 ユーロ=12,000 ギニアフラン程だったのが 2022 年第 1 及び 2 四半期には 1 ユーロ=9,000 ギニアフランまで、ギニアフランの価値が約 30%高騰した。

家賃の支払い等はユーロで行っていたため、その分支払いが多くなった。為替は自分でコントロールできない事象であるものの、変動のリスクに備え、予め予備費を設けておく必要があると思った。

- **洗濯の技術的問題**

色移り及びシミ取り等の洗濯に係る技術的な問題に直面し、事業の回転率が低下した。色移りに関し、色移り防止シートやネット等を利用したものの効果は薄く、利用者の色の濃い衣服と薄い衣服を分けて洗濯しなければならず、1回のサービス料で2回の洗濯を行った。シミ取りに関しては、シミ取りスプレーを月に2本程購入したため、1回当たりのサービスにかかるコストが上昇した。こうした技術的な問題に関し、今後、日本でランドリー経営の経験がある人や専門家等に意見を仰ぎ、改善すると効率よく運営できる。

- **アイロンがけサービスへのニーズ**

顧客に対するアンケートで、回答した顧客全員が洗濯・乾燥の他、アイロンがけサービスを希望した。コナクリ市には、スーツやムスリム教徒が特に金曜日にまとう服、及びアフリカ布やギニア布を使用した民族服を洗うためのドライクリーニング・サービスが多数存在する。ドライクリーニング・サービスは、例えばジャケット 1枚当たり 15,000 ギニアフラン(約 215 円)、ギニア布ドレス一枚当たり 20,000 ギニアフラン(約 288 円)と多くのコナクリ市民にとっては高価であるため、利用しにくい。一方、洋服と比べ皺になりやすいアフリカ布等を身にまとう頻度が高いギニア人にとって、アイロンがけは必須であると分かった。現在、アイロンがけサービスの導入に向け、家庭用プレス等の値段を調査している。

## 6. ご自身の今後のプラン、及び本活動の活用予定・計画

2022 年 5 月末現在、別資金を得て活動を継続している。貴団体資金を得て活動した 6 か月間で得られた教訓を踏まえ、アイロンやデリバリーサービス等の新サービス導入を図る予定である。一方、4 で記したように、活動を継続していくには、事業の社会インパクトと継続性を両立させる必要があり、そのためには、5 に記した通り、事業規模の拡大、広報活動への投資等を通して、回転率を高めることが求められる。今回の試運転を通して現時点では、そのための財政的及び人的資本ともに不足していると改めて感じた。

長期的には、改良したモデルで別地での展開を考えている。そのための資金調達、自己のスキルアップ及びチームビルディングに励んでいきたい。

これらの成果や学びをもたらすことを可能にした貴団体に感謝を申しあげます。ありがとうございました。